

和文表題 フォント: ゴシック体, サイズ: 12 ポイント

(和文副題 12 ポイント, 両端を括弧で囲む)

English Main Title Font: Times (New) Roman, Size 10pt
(English Sub-Title Font: Times (New) Roman, Size: 10pt)

(申込時の表題から変更しないで下さい)

和文氏名 (所属) フォント: 明朝体, サイズ: 10 pt 例: 混相 一郎 (〇〇大院)

英文氏名 Font: Times (New) Roman, Size: 9 pt, Example: KONSOU Ichiro

Abstract It must be written with 10 pt Times (New) Roman Font. The line spacing is 10.5 pt.
The number of words is limited within 200.**Keywords:** Font: Times (New) Roman, Size: 10 pt, About 5 words

1. 各章のタイトルはフォントサイズ 9 pt のゴシック体

本資料は、オフセット原稿を作成する方法を、視覚的にわかりやすく示したものです。

2. 本文執筆の要点

2.1 用紙サイズ, 余白, 段組み

原稿用紙には A4 版用紙を用い, 余白は次のようにする。

上余白: 17 mm, 下余白: 20 mm

左余白: 18 mm, 右余白: 18 mm

本文の段組は, 次のような 2 段組とする。

段間隔: 8 mm, 段幅: 83 mm

2.2 フォントと改行幅

標準フォントは, 9 pt の,

和文: 明朝体

英文: Times (New) Roman, Times, Symbol

を用い, 太文字には 9 pt の,

和文: ゴシック体

英文: Arial, Helvetica

を使用する。上記のフォントがない場合には, これに準ずるフォントを用いる。

改行幅は 12.25 pt とする。この設定により, 1 段あたりの文字数は, 26 文字×60 行=1560 文字となる。

2.3 式と記号

式と記号の標準文字は 9 pt の斜体 (イタリック体) とする。ベクトルの場合には太字の斜体 (イタリック体) あるいは一をつけた斜体 (イタリック体) とする。添字の上付き文字と下付き文字は 6 pt 程度のフォントサイズとする。以下に例を示す。

$$J_G \quad V_L \quad P_{ijk}^m$$

式の上下には空白行を設け, 式の右端に式番号を記入する。例えば,

$$F_D = C_D \frac{1}{2} \rho |V| V S \quad (1)$$

のように記述する。式を文章中で参照するときは, 式(5), 式(7)-(10)のように式番号の前に“式”をつける。

2.4 図, 表, 写真とその説明

図, 表, 写真は 1 段落, あるいは 2 段幅に収まるように作成し, 文章の適当な位置に配置する。図中のフォントサイズは十分認識できる 9 pt 程度とする。6 pt 未満の文字は使用しない。

図, 表, 写真の前後に 1 行の空白行を設ける。

図, 表, 写真の説明は, 太字の図, 表, 写真の番号の後に, 標準文字 (9 pt) の英語で説明を記述する。以下にその例を示す。

Fig. 2 Schematic of experimental apparatus.

Table 3 Properties of test fluids.

Photo 4 Flow pattern around sphere.

文章中で図, 表などを参照するときは, 太字で Fig. 2, Table 3, Photo 4 等と記述する。

原稿は PDF ファイルとして配布するため, カラーの図表も受け付ける (次頁の「講演論文集について」参照)。

2.5 記号の説明

記号を多数用いる場合には, 緒言 (結論) および謝辞等の後に, Nomenclature (本文中で使用した主な記号の説明) を英語で記述する。フォントサイズは 9 pt 程度とする。記入方法については本資料の Nomenclature の例を参照する。

2.6 参考文献

参考文献もフォントサイズ 9 pt で記入する。記入方法については本資料の文献記入例 ([1], [2]は単行本, [3], [4]は雑誌論文, [5], [6]は講演論文, [7]はウェブサイトの例) に従う。本文中で文献を引用する時には, [2], [2]-[4]等, 標準サイズの文字で参照する。

Nomenclature

C_D	: drag coefficient	[-]
dP/dz	: pressure gradient	[Pa/m]
Re	: Reynolds number	[-]
V_T	: terminal velocity	[m/s]

Greek letters

μ	: viscosity	[Pa·s]
ρ	: density	[kg/m ³]

Subscripts

G : gas phase
L : liquid phase

参考文献

- [1] Wallis, G. B., One Dimensional Two-Phase Flow, McGraw Hill, New York (1969).
- [2] 日本機械学会編, 気液二相流技術ハンドブック, コロナ社 (1989).
- [3] Zuber, N. and Findlay, J. A., J. Heat Transfer, Vol. 87, 453–468 (1965).
- [4] 高木周, 松本洋一郎, 混相流, Vol. 10, 264–273 (1996).
- [5] Ohira, H. et al., Proc. 6th Int. Conf. Multiphase Flow (ICMF2007), CD-ROM, Paper No. S1_Mon_C_8 (2007).
- [6] 田中博人ほか, 日本混相流学会年会講演会 2003 講演論文集, pp. 219–220 (2003).
- [7] <http://wwwr.hamamatsu-it.ac.jp/jsmf2010/> (ただし website は永年的でないため引用は勧められない)

原稿の長さ :

2 枚とします。超過は認めませんのでご了承ください。ページ番号は付けないでください。原稿の様式が本フォーマットと著しく異なる場合は、修正を依頼します。

提出物と提出先 (重要) :

原稿の PDF 電子ファイル (4Mbyte 未満) を混相流シンポジウム 2017 のホームページからお送り下さい。
<http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2017/>

混相流シンポジウム 2017 論文精選集への投稿 :

特集号の出版を予定しています。この混相流シンポジウム 2017 で一般講演発表を審査し、優れた講演を特集号の候補論文として推薦いたします。推薦論文の審査に当たっては、著者の掲載希望 (講演申し込み時に「特集号への論文審査を希望」を選択) を勘案いたします。なお、論文の査読過程は通常の混相流学会誌論文と同一です。

講演論文集について :

講演論文集は、印刷体としてではなく USB メモリーでの配布となっております。これに伴い、カラーの図表も問題なくお使いいただけるようになりました。

講演原稿提出期限 :

2017 年 6 月 12 日 (月) 厳守

その他のお問い合わせ :

実行委員会事務局 :
実行委員長 大川 富雄 (おおかわ とみお)

E-mail: konsosymp@jsmf.gr.jp,

までお問い合わせ下さい。